

開催	第53回総会 総括と飛躍
開催年月日	1999年2月18日（木曜日）19日（金曜日）
開催地	京都市 国立京都国際会館ほか
会長名	 <p>小玉 正智 (滋賀医科大学第1外科)</p>
会長講演	食道癌治療とともに
講演	<p>(特別講演) 1. 胃癌発癌研究の変遷, 問題点とこれからの展望/服部 隆則 2. 日本経済と医療/田原 総一郎 3. 肝門部胆管癌—外科治療の反省と将来/二村 雄次 4. 上皮細胞間をシールする分子機構/月田 承一郎</p> <p>(招待講演) 1. The Control of Infection in Gastrointestinal Surgery: From History and Prospects for the Future/Hiram C.Polk 2. Impact of Liver Transplantation on Surgical Practice/Jeremiah G.Turcotte 3. Barrett's Esophagus and Esophageal Adenocarcinoma-Pathophysiology Diagnosis and Treatment/Arnulf H.Holscher</p>
宿題報告	
シンポジウム	<p>1. 進行膵癌に対するPpPDとconventional PDの成績 2. 胃癌16番リンパ節郭清の再評価 3. 直腸癌神経温存手術後の機能と予後 4. 食道癌の進行度に応じた至適リンパ節郭清 5. 消化器癌における悪性度判定の限界と可能性 6. 再発癌に対する戦略(消化管, 肝・胆・膵)</p> <p>(ビデオシンポジウム) 1. 消化器外科における機能再建術式 2. 粘液産生膵腫瘍に対する術式 3. 肝門部胆管癌に対する術式の工夫 4. 臓器別進行癌に対する術式工夫</p>
パネルディスカッション	<p>1. 肝予備能の再評価と展望 2. 多臓器障害に対する治療戦略 3. 炎症性腸疾患に対する外科的戦略 4. 成人生体部分肝移植の適応と問題 5. 悪性疾患に対する腹腔鏡下手術の現状 6. Stage IV食道癌に対する外科的治療の再評価と展望</p>
ワークショップ	<p>1. 消化器外科と人工材料・人工臓器 2. 癌診断と治療における分子生物学の応用 3. 胃上部癌に対する機能面から見た術式選択 4. 高度進行癌における長期生存例の解析 5. 手術侵襲と生体反応 6. 消化器外科におけるday surgeryの現状と展望 7. 小肝癌に対する外科的治療方針</p>
シネ・ビデオ	<p>(ビデオセッション) 食道1~4 胃1~5 大腸1~2 肝臓1~3 胆道1~4 膵臓1~2 腹腔鏡下手術1~2</p>
その他	<p>(市民公開講座) 1. 癌告知 2. 病院ボランティア (ランチョンセミナー) (1) ~ (15) (モーニングセミナー) &lt;メインテーマ&gt;21世紀へのかけ橋—総括と飛躍— <a href="#">抄録集</a> </p>